

平成28年 第3回定例会

苫小牧港管理組合議会会議録

平成28年10月24日開催

苫 小 牧 港 管 理 組 合 議 会

平成28年 第3回定例会
苫小牧港管理組合議会

平成28年10月24日（月曜日） 午後1時52分開会

○本日の会議に付議した事件

日程第1 会議録署名議員の指名について

日程第2 会期の決定について

日程第3 諸般の報告について

日程第4 報告第1号について

報告第1号 公営企業に係る資金不足比率について

日程第5 議案第1号及び第2号について

議案第1号 平成27年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算の認定について

議案第2号 平成28年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第1号）について

日程第6 一般質問

○出席議員（10人）

1番	沖田清志君	6番	中山智康君
2番	川尻秀之君	7番	藤田広美君
3番	越川慶一君	8番	松尾省勝君
4番	田中芳憲君	9番	板谷良久君
5番	谷川芳一君	10番	神戸典臣君

○説明員出席者

管 理 者	岩倉博文君
専任副管理者	佐々木秀郎君
副 管 理 者	渡邊直樹君
副 管 理 者	佐藤裕君
総 務 部 長	浅井孝人君
施 設 部 長	佐藤匡之君
港湾振興室長	池淵雅宏君
港湾振興課長	中谷伸二君
総 務 課 長	小林啓司君
業務経営課長	松原敏行君

計 画 課 長	平 山 雅 樹 君
施 設 課 長	山 下 和 幸 君
会 計 管 理 者 兼 出 納 室 長	成 田 勉 君
総 務 課 長 補 佐	長 谷 川 卓 君
業 務 経 営 課 長 補 佐	山 崎 直 人 君
施 設 課 長 補 佐	三 田 弘 志 君

監 査 委 員	紺 谷 ゆ み 子 君
監 査 委 員	松 井 雅 宏 君
監 査 委 員 事 務 局 長	前 田 正 実 君
監 査 委 員 事 務 局 主 幹	桐 木 賢 君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	小 林 啓 司 君
庶 務 係 長	長 谷 川 卓 君
議 事 係 長	田 中 亮 太 君

○開会

○議長（神戸典臣君） これより、本日をもって招集されました平成２８年第３回定例会を開会をいたします。

○開議

○議長（神戸典臣君） それでは、本日の会議を開きます。

○会議録署名議員の指名

○議長（神戸典臣君） 日程第１「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８５条の規定により、議長において、田中芳憲君及び中山智康君を指名いたします。

○会期の決定

○議長（神戸典臣君） 日程第２「会期の決定」を議題といたします。

本定例会の会期は、本日１日間といたしたいと存じますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、会期は、本日１日間と決定いたしました。

○諸般の報告

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第３「諸般の報告」を行います。

監査委員より、平成２８年度７月と８月の「現金出納検査の結果」及び「平成２８年度定期監査及び財政援助団体等監査の結果」の報告がありました。

既に配付しております議案等に、報告書の写しがございますので、御覧ください。

○報告第１号 公営企業に係る資金不足比率について

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第４、報告第１号「公営企業に係る資金不足比率について」を、議題といたします。

説明を求めます。

総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 報告第１号「公営企業に係る資金不足比率について」御説明申し上げます。

お手元に配付しております議案等の１ページと３ページを御覧ください。

これは、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第２２条第１項の規定に基づき、平成２７

年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計の決算に基づく資金不足比率について報告するものでございます。

資金不足比率は、決算年度に係る資金不足額の規模に対する比率をあらわす指標であり、当該比率が資金不足比率基準である20%以上になった場合は、経営健全化計画を定めることとなります。

港湾整備事業特別会計につきましては、歳出額が歳入額を上回るような資金不足を生じていないため、資金不足比率は算出されておられません。

以上、公営企業に係る資金不足比率について、7ページにあります監査委員の審査意見を付して御報告申し上げます。

○議長（神戸典臣君） ただいまの説明に関し、御質問等ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御質問がなければ、本件は終了いたします。

○議案第1号 平成27年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算の認定について

○議案第2号 平成28年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第1号）について

○議長（神戸典臣君） 次に日程第5、議案第1号「平成27年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算の認定について」を議題といたします。

説明を求めます。

専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 私のほうから説明をさせていただきます。

議案第1号「平成27年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算の認定」について御説明を申し上げます。

お手元に配付しております議案等の9ページを御覧ください。

これは、地方自治法第233条第3項の規定により、監査委員の審査意見をつけて、議会の認定に付するものであります。

それでは、別冊1の平成27年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算書により説明を申し上げます。

初めに、一般会計でございますが、1ページを御覧ください。

歳入決算額は49億4,581万2,520円、歳出決算額は48億428万6,567円、歳入歳出の差引残額は1億4,152万5,953円となっております。

これは、翌年度へ繰越しするものでございます。

16ページを御覧ください。

一般会計の歳入合計につきましては、当初54億2,272万2,000円で予算編成いたしましたが、その後2回補正を行い、総額4億6,581万2,000円減額し、前年度からの繰

越事業費繰越財源であります3,863万1,000円を加え、最終予算額は49億9,554万1,000円となっております。

なお、歳入済額は49億4,581万2,520円となっており、収入未済額はございません。続きまして、24ページを御覧ください。

一般会計の歳出合計につきましては、予算現額49億9,554万1,000円となっております。支出済額は48億428万6,567円で、不用額は1億9,125万4,433円となっております。

不用額の主なものは、工事請負費や繰出金の残などによるものでございます。

戻りまして、5ページを御覧ください。

次に、港湾整備事業特別会計でございますが、歳入決算額は26億5,935万3,830円、歳出決算額は26億5,935万3,830円となっております。

33ページを御覧ください。

特別会計の歳入合計につきましては、当初28億2,721万3,000円で編成いたしましたが、その後、年度中に2回の補正を行い、総額1億1,644万9,000円減額し、最終予算額は27億1,076万4,000円となっております。

なお、収入済額は26億5,935万3,830円となっており、収入未済額はございません。続きまして、38ページをご覧ください。

特別会計の歳出合計につきましては、予算現額27億1,076万4,000円となっております。支出済額は26億5,935万3,830円で、不用額は5,141万170円となっております。

不用額の主なものは、需用費の残などによるものでございます。

以上、簡単ではございますが、決算の説明とさせていただきます。

監査委員からの審査意見を踏まえ、今後も財務事務の適切な運用を努めてまいりたいと考えております。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（神戸典臣君） 次に、監査委員から本決算認定の審査の結果について御報告をいただきます。

監査委員、紺谷ゆみ子君。

○監査委員（紺谷ゆみ子君） 平成27年度苫小牧港管理組合一般会計及び港湾整備事業特別会計の決算につきまして、審査の概要を申し上げます。

「決算審査意見書」の3ページに述べておりますが、決算に関する書類の「各会計歳入歳出決算書」、「歳入歳出決算事項別明細書」、「実質収支に関する調書」及び「財産に関する調書」は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、また、表示された計数は証書類と符合し、正確であることを認めております。

次に、各会計の予算の執行及び事務処理につきましては、別に実施した定期監査で一部改善を要するものが見受けられましたが、おおむね適正かつ効率的に執行されております。

なお、各会計における決算状況及び審査意見の詳細につきましては、「意見書」を御参照ください。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第1号についてお諮りをいたします。

議案第1号を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第1号は、原案のとおり可決されました。

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第5、議案第2号「平成28年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第1号）について」を議題といたします。

説明を求めます。

専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 議案第2号「平成28年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第1号）」について御説明申し上げます。

今回の補正につきましては、8月の台風10号による高潮長周期波の影響で被災した、ふるさと海岸の緩傾斜護岸及び漁港区の1号浮さん橋の災害復旧事業に伴うものと、この台風の影響により大量に発生した流木等の海岸漂着物回収処理事業について、北海道の補助金交付対象事業に採択されたことによる歳入歳出予算の補正でございます。

お手元に配付しております議案等の15ページを御覧ください。

一般会計補正予算についてでございますが、歳入歳出にそれぞれ4,026万円を追加し、歳入歳出予算の総額を54億5,632万7,000円に補正するものでございます。

歳入と歳出それぞれの内訳について、議案第2号資料の「平成28年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算に関する説明書」により御説明申し上げます。

3ページを御覧ください。

歳入予算であります。災害復旧事業に係る歳入として、第3款「国庫支出金」第1項「西港

国庫支出金」に、新たに第2目として「国庫負担金」3,040万円を追加し、第8款「組合債」第1項「西港組合債」に、新たに第2目として「災害復旧事業債」760万円を追加するものでございます。

また、海岸漂着物回収処理事業として、第4款「道支出金」第1項「西港道支出金」に新たに第2目として「北海道海岸漂着物地域対策推進事業補助金」226万円を追加するものでございます。

4ページを御覧ください。

歳出予算であります。海岸漂着物回収処理事業に係る歳出として、第3款「港湾管理費」第1項「西港施設管理費」に、新たに第2目として「補助事業費」282万5,000円を追加し、国の交付金事業費の減に伴う組合債の借入額低下により、第5款「公債費」第1項「西港公債費」第2目「利子」56万5,000円を減額するものでございます。

災害復旧事業費としましては、第8款「災害復旧費」第1項「西港港湾施設災害復旧費」第1目「港湾施設災害復旧費」に3,800万円を追加するものでございます。

このほか繰越明許費でございます。

議案等の18ページを御覧ください。

これは、翌年度に繰り越しして使用することができます繰越明許費について、平成28年度国の2次補正予算により予算配分された社会資本整備事業を実施するに当たり、その工期が平成29年度に及ぶため総額1億4,886万4,000円を計上するものでございます。

以上、議案第2号につきまして、御説明申し上げます。

御審議の上、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上です。

○議長（神戸典臣君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑ございませんか。

藤田広美君。

○議員（藤田広美君） それでは、補正予算の台風10号による被災箇所の災害復旧事業について、何点か質問させていただきます。

この部分で、まず汐見地区の緩傾斜護岸と漁港区の浮さん橋の復旧事業でありますけれども、緩傾斜は護岸ブロックの飛散や沈下、浮さん橋では橋りょうの損傷ということでございますけれども、被害箇所や状況も違うと思いますけれども、27年度もこの浮さん橋の仮応急工事や汐見地区護岸の災害復旧工事が行われております。

今回のこの28年度の事業でありますけれども、27年度の災害復旧工事で、今回の台風被害を未然に防ぐことはできなかったのか、27年度の災害復旧工事との違いについてお聞きをしたいと思います。

また、減災という観点から、災害を未然に防ぐ取組が重要であると思います。汐見地区の護岸

整備も平成2年から17年まで整備されておりますけれども、自然環境の変化やブロックなどの老朽化もございます。今回被災した箇所だけ工事をして、また同じような被害が発生することも想定できるわけでありまして。ふるさと海岸には多くの市民が訪れるわけでありまして。安心して楽しんでいただくところにするためにも、全体的な整備も行うことが今後必要ではないかと思いますが、そのような考えはないのか、お聞かせいただきたいと思います。

また、海岸漂着物補助金とともに、単独費が計上されております。広範囲にわたって流木や漂着物の除去、さらには堆砂除去などありますけれども、単独費での被災対応についての進捗状況をお聞かせいただきたいと思います。

また、処分する流木や漂着物の対応はどのようにしていくのか、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

この中に、元町地区の堆砂のことが載っておりますけれども、台風10号により民家まで砂が堆積すると、そういった被害がありました。消波ブロックの沈下と堆砂の影響というふうに伺っておりますけれども、この地域の今後の災害対策として、離岸堤の整備や消波ブロックの追加整備などが私は必要と考えます。災害を未然に防ぐ取組として、どのように考えているのか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） ただいまいただきました藤田議員からの御質問にお答えいたします。

まず、昨年度の災害復旧工事との違いについてのお尋ねですが、災害復旧工事では、原形復旧が基本とされ、今回のような異常気象に対して、構造の強化や機能の向上を図ることはできませんが、昨年、今年と同一箇所で被災を受けていることから、今回の復旧工事に当たりましては、より強固な構造に改良できるよう、国に働きかけてまいります。

続きまして、ふるさと海岸の全体的な整備についてのお尋ねですが、汐見地区のふるさと海岸は、平成2年から平成17年にかけて、地域住民が海岸に親しむことや、台風などにより生じる高潮からの被害を防ぐことを目的として整備されております。

ふるさと海岸の災害は、限定された箇所で被災を受けているものの、全体としては、周辺施設等には大きな被害もなく、必要な機能は維持していること、また、こうした状況の施設を事業化するための制度もないことから、現時点におきましては全体的な整備は考えていないところでございます。

今後は、市民の皆様が安心して利用できるよう、引き続き定期点検やパトロールにより、施設の異常や損傷の早期発見に努めるなど、ふるさと海岸の適切な維持管理に取り組んでまいります。

次に、単独費での被災対応の進捗状況などについてのお尋ねですが、単独費により対応する11か所の被災のうち、入船ふ頭のグレーチングなどの8か所については、これまでに復旧を終え、残すところは、海岸に漂着した流木処理、元町海岸の堆砂の除去、勇払マリーナにおけるさん橋を固定するボルトの破損の3か所となっており、現在早期の復旧完了に向けて作業を進めている

ところでございます。

また、流木や漂着物の対応につきましては、苫小牧港内の航路や岸壁前面の泊地などに漂流する流木は、船舶の安全な航行や離着岸に支障を来すおそれがあることから、確認次第、当管理組合が業務委託しております海面清掃業者に連絡し、回収しております。回収した流木は、現在船だまりなどの用地に集積しておりますが、先日、市内で流木の受入れが可能な産業廃棄物処理業者と契約を終えたことから、順次処分を行ってまいります。

また、海岸への流木や漂着物につきましては、北海道に対し、北海道海岸漂着物等地域対策推進事業補助金の要求を行ったところ、先般補助金の交付予定額が示されたことから、今定例会に補正予算として計上しており、御承認いただいた後、速やかに対応してまいりたいと考えております。

なお、海岸線の直背後に民家がある区域につきましては、職員や依頼した業者により、流木や漂着物の撤去を行っております。

最後になりますが、元町地区海岸の災害対策についてのお尋ねですが、元町地区の海岸保全施設につきましては、昭和30年代に発生した波浪により、海岸線付近の民家などが被災を受けたため、災害復旧事業により民家の前浜に護岸を整備しております。

その後、高潮対策事業によりまして、昭和49年から平成元年にかけて護岸のかさ上げ、消波堤、離岸堤などの海岸整備を進めてまいりました。

各施設の状態は、離岸堤につきましては、経過年数とともに若干の沈下が見受けられるものの、本来の機能が損なわれる状況には至っておりませんが、波打ち際に設置した消波堤については、一部の区間において沈下し、砂浜に埋没している状況となっております。

このたびの台風10号による波浪は、近年の観測史上、まれな異常波浪であったことから、特に消波堤が埋没している区間におきまして、砂や流木などが護岸の上に打ち上がる状況となったところでございます。

この状況を受けまして、現地の砂浜の地形も大きく変化したことから、現状の施設の機能が満足しているか検証を進めており、引き続き海岸保全施設の改良について検討してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 藤田広美君。

○議員（藤田広美君） それでは、再質問させていただきますけれども、災害復旧工事については、原形を復旧させるだけであるということでありまして、より強固な構造に改良できるよう、国に働きかけていくということで分りましたけれども、ふるさと海岸の全体的な整備は考えていないといった答弁がありました。

現在、ふるさと海岸の遊歩道の一部に砂が堆積しています。特に高砂町付近の海岸では、砂が遊歩道近くまでせり上がってきて、遊歩道とともに海岸の砂の除去が必要であるというふうに考

えます。この遊歩道の安全確保と、景観をよくするためにも、今後を見据えた整備が私は必要だと思いますけれども、そのような考えはないのか、お聞きしたいと思います。

また、元町地区の海岸の災害対策ですけれども、海岸保全施設の改良について検討していくと、そういった答弁がございました。現在この元町地区の海岸は、民家も近くにあつて非常に不安を感じているわけです。特に高波とか、本当に夜も眠れない、そういった不安を抱えている住民もいるわけでございます。

今回の台風被害を受けて、遊歩道には多数の土のうが積まれております。この間数えたら148個ぐらいあったと思いますけれども、そういった近辺の地域の方は、非常に不安を抱えていると。この砂のせり上がりも遊歩道に迫っていて、離岸堤も、一部ではありますけれども経年劣化が見受けられるところであります。遊歩道の安全対策とともに、住民の不安解消のために、早期の改良が必要だと思います。先ほど検討していきたいといった答弁もありましたけれども、どのような改良を考えているのか、そして、いつまでに結論を出すのかお聞きしたいと思います。

また、この地域の流木や漂着物は非常に多い状況となっておりますけれども、今回の対策で、これらの状況も改善することになるのか、再度お聞きしたいと思います。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） それでは、私のほうから、藤田議員への再質問に回答させていただきます。

まずは、ふるさと海岸の今後を見据えた整備についてのお尋ねでございますけれども、我々としましても、市民の皆様方がふるさと海岸の護岸の一番上、最上段の部分を遊歩道として御利用いただいているということは承知しております。このため、通行の支障になるような砂ですとか流木については、早急に除去してまいりたいというふうに思っております。

さらに、その下のほうの護岸ブロックの上に堆積した砂につきましては、非常に広範囲、それから大量な土砂ということになっているものですから、これにつきましては、今年度の予算の執行状況を勘案しながら、できるだけ早急に除去していきたいというふうに考えております。

これらを含め、今後はふるさと海岸の点検によりまして、施設の劣化度をしっかり把握し、適切なタイミングで補修、修繕などができるよう、維持管理を強化することによりまして、施設の機能の確保や景観の保全に努めてまいりたいと、このように考えております。

次に、元町地区海岸の災害対策についてのお尋ねでございますが、この度の台風10号の異常波浪では、消波堤の沈下や砂浜への埋没が見れる区間におきましては、砂や流木が民家周辺まで打ち上がる状況であったことから、今後の波浪への備えといたしまして、既に緊急的に設置をした土のうにつきましてですが、これをその前面の、護岸前面に堆積した砂をまず除去いたしまして、波の遡上を軽減した上で、土のうを撤去していきたいと、このように考えております。

また、併せて離岸堤や波打ち際に設置しました消波堤の沈下状況や、その要因把握のための調

査、それからその対策の検討というものを行っているところでございまして、早期に元町地区海岸の安全を確保できるよう、必要な準備を整え、事業採択に向けて国への働きかけを行っていきたいというふうに思っております。

なお、現在海岸等に漂着している流木などにつきましては、今定例会で計上しました補正予算を活用いたしまして、早期に撤去処分することにしておりますが、今後先に述べましたような対策を講じることによって、流木やごみなどの護岸への漂着は減少させることができるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 他に質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第2号についてお諮りをいたします。

議案第2号を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第2号は、原案のとおり可決されました。

○一般質問

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第6、「一般質問」の通告が越川慶一君からありますので、これを許します。

越川慶一君。

○議員（越川慶一君） それでは、私のほうから、通告に従い、質問をさせていただきます。

1つ目に、平成27年度の苫小牧港管理組合の決算についてでありますけれども、先ほど議案第1号においても認定をされたというところでありますが、私のほうからは、単年度の収支状況についての見解をお聞きしたいというふうに考えております。

最初に、平成27年度の一般会計及び港湾整備事業特別会計の合計歳入額については、約76億円であり、前年度と比較をいたしますと、約11億円が減少したと、歳出の総額では約74億円で、前年と比較しますと約10億円減少しているということになります。また、実質収支は約1億4,000万円の黒字となっておりますが、単年度の収支では約3,000万円の赤字となっているということから、まずはこの要因についてお聞きをしたいと思います。

また、歳入の中で、北海道と苫小牧市からの母体負担金が約5割を占めている、こういうよう

な現状について、管理組合としての認識をお聞きしたいと思います。

母体負担金については、減少傾向であるものの、今後については母体負担金や公債費の減少に向けた取組もやはり重要になってくるというふうに考えますが、見解をお伺いしたいと思います。

なお、今後の母体負担金や公債費の目標などもあれば、併せてお聞かせをいただきたいというふうに思います。

次に、台風被害の関係であります。苫小牧港における台風被害の状況についてということで質問をさせていただきます。

8月30日から31日にかけて台風10号が通過をしまして、苫小牧港についても様々な被害を受けたというふうに聞いています。私も海岸線を歩いて現地を見てきておりますけれども、本当に多くの流木もありますし、現在も波打ち際に打ち上げられている現状にあります。台風の脅威を感じるというところであります。

今回の台風による被害状況について、改めて内容についてお聞きをしたいというふうに思います。また、この流木については、現在も港内のほうに入ってきている状況にあるというふうに聞いておりますけれども、船の運航ですとか、荷役への影響がないのか、この現状についてもお聞きをしたいと思います。

次に、復旧に向けた補助金の活用についてもお聞きをしたいと思います。

汐見地区と漁港区の復旧費用、今の補正予算等の説明では、約4,100万円というふうに聞いております。財源は、国の災害復旧事業などを活用するということでありますけれども、災害という事象から早期の復旧が求められているというところであります。そのような観点から、国の事業の採択、これがいつ決まるのか、見通しはいつになるのかというところをまずお聞きをしたいというふうに思います。

次に、苫小牧港の長期構想というところで質問したいと思います。

長期構想の検討内容及びスケジュールについてであります。

苫小牧港の長期構想については、平成19年に改訂をされ、9年が経過をしたところであります。これまでの計画の前提となっていた社会情勢や物流動向が大きく変化をしている状況にあり、今後の時代変化に対応した港湾機能の維持、強化が求められているというふうに考えております。

長期構想の策定に向けた今後の検討内容とスケジュールについて、まずはお伺いをしたいと思います。

次に、副水路構想についてお聞きをしたいと思います。

前回の長期構想において、西港区の更なる高度利用と物流の向上、安全性の確保を図るというそういう観点からも、副水路構想、こういうものが提案をされておりました。具体的にどのような検討がこれまでに行われてきたのか、お聞きをしたいというふうに思いますし、整備効果と整備の費用などについてもお聞きをしたいと思います。

今後策定する長期構想については、費用対効果ということも意識されるということになると考

えますけれども、輸送コストの削減や湾内の航行上の安全性の向上なども含めて、様々な検討が行われるというふうに考えますが、この副水路構想は、継続してこの構想の中に盛り込む考えなのか、見解をお伺いしたいと思います。

次に、施設の老朽化対策について質問をしたいと思います。

施設の老朽化対策に向けた整備計画について質問をさせていただきます。

苫小牧港は、昭和38年に開港をしまして、3年前には開港50周年という節目を迎えたところであります。これは裏を返すと、当時に建設されました埠頭や施設が老朽化をしてくると、そういうことを意味しておりまして、今後はこれらの施設の老朽化対策が大きな課題になるというふうにも考えているところでもあります。

施設の老朽化について調べてみますと、東ふ頭や南ふ頭、中央北ふ頭など、建設から40年を超えている施設が多くあります。今後、数年が経過すると、建設から50年を超える施設が多くなるというのが実態でもありますので、これら施設の老朽化対策について、現在の整備計画と今後の対策についてお聞きをしたいと思います。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 越川議員の御質問にお答えをしたいと思います。私のほうからは、長期構想におけます今後の副水路構想についての回答についてお答えをさせていただきます。

この副水路構想といいますのは、西港区の港奥から外海に向かって新たな水路で結ぼうと、こういう構想でございまして、現在の港湾計画にも将来構想という形で位置付けられております。このため、今後この長期構想の委員会の中で、しっかりと議論を重ねた上で、この長期構想の中での位置付けを判断していきたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 私からは、単年度の収支状況についてお答えさせていただきます。

まず、歳入歳出額の減少と、単年度の収支状況についてのお尋ねですが、平成27年度決算額が、歳入歳出ともに前年度比約10億円の減少となっていることにつきましては、平成26年度と比較すると、西港区の荷さばき地整備工事などの減が主な理由でございます。

次に、単年度の収支状況についてでございますが、平成26年度決算におきます残額約1億7,000万円に対しまして、平成27年度決算残額が約1億4,000万円で、差引き約3,000万円減となっておりますが、実質収支は1億4,000万円の黒字となっていることから、財政運営上、支障がないものと認識しております。

次に、母体負担金と公債費についてのお尋ねですが、苫小牧港の整備や維持管理等に必要な事業を実施するに当たり、限られた予算の中で、緊急かつ重要な施策の優先度を考慮して予算編成を行っており、岸壁などの使用料収入や国の補助金及び起債などを充てても、なお歳入予算に不

足が生じるため、母体負担を受けております。

こうした予算編成を行っており、母体負担金は年々減少し、推移については、平成18年度の34億5,000万円をピークに、平成27年度決算時には約25億4,000万円となっております。

一方、公債費につきましては、毎年の港湾整備事業費に左右されますことから、目標比率を定めることは難しいと考えておりますが、公債費比率残高としては、平成16年度の約446億円をピークに減少しており、平成27年度では約305億円となっているところであります。

管理組合といたしましては、今後とも管理組合の財政状況のみならず、母体の財政状況なども踏まえた上で必要な事業の執行に努めてまいりたいと考えております。

私からは、以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） 私からは、台風による被害状況、長期構想、港湾施設の老朽化対策についてお答えいたします。

まず、今回の台風10号による被害状況などについてのお尋ねですが、主な被害箇所は、汐見地区ふるさと海岸の緩傾斜護岸、漁港区の浮さん橋、浜町から浜厚真の海岸等に打ち寄せられた流木等13か所で、復旧費用は約9,300万円を見込んでおります。

また、苫小牧港内の航路や岸壁前面の泊地などに漂流する流木は、船舶の安全な航行や離着岸に支障を来すおそれがあることから、確認次第、当管理組合が業務委託しております海面清掃業者に連絡し、船の運航や荷役への影響がないように回収しております。

続きまして、国の災害復旧事業の採択の見通し等についてのお尋ねですが、台風10号が通過した2日後の9月2日に国土交通省港湾局に被害状況の報告を行い、その後、詳細な現地調査等を実施し、国の災害復旧事業の採択要件に照らし合わせ、国庫負担申請を行ったところでございます。事業の採択は現地査定で決まり、その日程は11月上旬を予定しております。

次に、長期構想の策定の検討内容とスケジュールについてのお尋ねですが、検討内容につきましては、今年の9月に開催いたしました第1回委員会では、前回の長期構想の進捗状況、苫小牧港を取り巻く情勢の変化、苫小牧港の現状や問題点を示し、委員の皆様から御意見をいただいております。

今後は、日本、さらには世界における苫小牧港の役割などを明確にしながら、目指す姿や、そのために必要となる機能、空間利用計画などの検討を進め、パブリックコメントを実施した上で取りまとめたいと考えております。

策定までのスケジュールにつきましては、今年度は9月に開催した委員会を含めて2回、来年度に3回の計5回の開催を予定し、来年度末を目標に策定してまいります。

続きまして、副水路構想の検討についてのお尋ねですが、これまでに副水路の幅員、口径や建設による整備効果、さらには概算建設費用などについて検討をしております。

整備効果としては、全ての船舶を一方通行とした場合に、X信号の対象となる大型船以外は通常入出港が可能となり、信号管制による入出港待ちが減少するなど輸送コストの削減が期待できることや、港内の輻輳緩和による港湾航行上の安全性が向上すること、さらには災害発生時における港湾活動の維持などが期待できることがある一方で、約2,000億円と試算される建設費用や、全ての船舶を一方通行とした場合に、本港地区のフェリーやRORO船につきましては、出港時に港内移動距離が長くなるため、現在の利用状況では出港に時間的ロスが生じるなどデメリットも考えられているところでございます。

最後になりますが、港湾施設の老朽化対策についてのお尋ねですが、我が国の港湾施設につきましては、高度経済成長期に集中的に整備されたものが多く、老朽化施設の急速な増加が懸念される一方で、維持管理や更新・修繕に充当できる財源には限りがあり、施設の機能確保のための戦略的なマネジメントが重要になっております。

このため、国土交通省では港湾法や関係省令を改正し、施設の定期点検などの維持管理の手法について明確化を図るとともに、更新・修繕費の縮減、平準化を図るため、予防保全の考え方に立った効率的・効果的な老朽化対策の進め方を定めたところでございます。

本港におきましても、この考え方にに基づき、定期点検による劣化度判定や利用実態などから、優先順位や更新及び修繕に要する費用などを勘案した計画期間を5か年とする予防保全計画を策定し、老朽化対策に取り組んでいるところであり、引き続きこの計画の適宜見直しを図りながら、効率的かつ効果的な対策の実施に努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 越川慶一君。

○議員（越川慶一君） それでは、再質問をいたします。

最初に、27年度決算の単年度収支についてでありますけれども、先ほどは実質収支が黒字になっている、そして財政運営上は支障がないという、そういうような答弁もありましたけれども、母体負担金につきましては、年々減少しているとはいえ、約25億4,000万円ということでありますので、今後についても同程度の母体負担金が発生してくるのではないかとというふうにも考えるところであります。

管理組合としては、これを少しでも減少させるような取組など、もう少し具体的に検討されているのか、この部分について考えをお聞きしたいというふうに思います。

次に、台風被害の状況について再質問をさせていただきます。

漁港区の浮さん橋が被災をしておりますけれども、この浮さん橋については、漁港区の中にあるということから、漁業にも影響が出るのではないかとこのところを危惧をしているところであります。そのため、復旧期間についてはどの程度かかるのか、また復旧に漁業への影響がないのか、この部分についてもお聞きをしたいというふうに思います。

それから、復旧費用についてでありますけれども、補正予算で示されております約4,100

万円以外にも、単独費で約5,200万円を充てるというようなことでありますけれども、今回の補正予算では、この単独費部分については示されておりませんので、この費用については、どのように予算措置をしていく考えなのか、見解をお伺いしたいと思います。

次に、長期構想の副水路構想の関係について、再度質問したいと思います。

この副水路構想については、様々な課題があるというふうにも認識をしておりますけれども、この構想が実際に進められた際には、たくさんの雇用も生まれますし、地元企業にも仕事が発注されるというようなことなどから、地域経済への大きな効果も期待ができるのではないかなというふうにも考えるものであります。

また、今後も発展を続ける苫小牧港として、開港100年に向けて新たな目玉的なプロジェクトにもつながるのではないかなというふうにも思われますけれども、この長期構想は、それくらい先の先を見据えた構想になるのではないのかなというふうに思われますが、港湾管理者としての30年から40年先の苫小牧港をどのように思い描かれているのか、見解をお伺いしたいと思います。

それから、施設の老朽化についても再質問をさせていただきます。

安全・安心の苫小牧港を目指すという意味においては、改修・改良といった対策については、必要不可欠であるというふうにも認識をしておりますけれども、今後の施設のあり方、それから方向性についても、いろいろと検討していかなければならない部分があるのではないかなというふうに考えますので、これらについての見解をお伺いしたいと思います。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 管理者、岩倉博文君。

○管理者（岩倉博文君） 越川議員の質問にお答えをさせていただきますが、苫小牧港の将来をどのように描いていくのかというお尋ねであります。

私が市長あるいは管理者に就任をして10年という年月が経過をしておりますが、就任当初からこの港管理組合内部でも、港湾は戦略の時代ということを発信し続けてきております。

国内におきまして港湾を取り巻く環境は、御案内のとおり、人口減少あるいは高齢化が同時進行している、そうした時代のトレンドの中で、海外に目を向けますと、アジア圏の経済は著しい成長を遂げるなど、大変大きな変化が見られるわけであります。

港湾を取り巻く状況が新しい時代に入ってきている中で、海上あるいは空、そして陸を含めてこの国の物流がどうなっていくのかしっかりと捉え、北海道、さらには我が国の経済、産業を牽引する物流の拠点としてあり続けられるよう、苫小牧港の次なる成長発展を目指していくことが必要であるというふうに考えております。

このため、長期構想では農林水産業あるいは食関連産業など世界に目を向けた産業の振興を担うこと、人流あるいは物流ネットワークの拠点として、人が輝く地域社会の形成を担うこと、そして激甚化、多様化する災害に対し、市民生活を支える強靱で持続可能な物流機能を担うことな

どの観点から、苫小牧港の将来をまとめていきたいというふうに考えております。

私からは、以上です。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 私のほうから、越川議員の再度の質問にお答えをさせていただきます。

まず最初に、母体負担金を減少させるための取組についての質問についてでございますが、先程もお答えしておりますけれども、苫小牧港の整備、それから維持管理などに必要な事業を実施するに当たりましては、限られた予算の中で、緊急且つ重要な施策の優先度を考慮して予算編成を行っており、これまでも健全な財政運営を図るために、使用料収入の増加や、それから国の補助金などを最大限活用すると、こういった取組を進めた結果、現在母体負担金の減少につながっているものと考えております。

今後とも、国際拠点港湾として更なる発展に大きく寄与するために、港湾の機能強化を図っていくとともに、さまざまな財源の確保に努めるなど、健全な財政運営を推進してまいりたいと思っております。

もう1点、老朽化対策の今後の方向性についてのお尋ねでございますけれども、本港は掘込み式の港湾である特性上、新たな岸壁の造設などは困難であり、現在の利用状況からは、既存施設の機能を維持していく必要があると、このように考えております。

しかしながら、港湾計画の変更などによります既存施設の集約、利用転換なども今後想定されますことから、将来の利用形態などを勘案しながら、予防保全計画の見直しを適宜図り、計画的な老朽対策を行っていく所存でございます。

私からは、以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 私からは、台風被害の復旧に係る単独費の予算措置についてお答えさせていただきます。

海岸へ漂着した流木の収集処分、越波により堆積した砂の除去及び岸壁エプロンのグレーチング飛散などは、被害規模等の面で災害復旧事業の採択要件を満たさないことから、単独による港湾管理費の施設管理費などでの対応となります。

今後の執行につきましては、今年度の執行予定を次年度に先送りすることや、規模の縮小を図ること、また光熱水費や消耗品の節約を行うなど、今後の執行見込額を精査し、復旧費用を捻出いたしますが、それでもなお不足が生じる場合については、次回定例会での補正についても検討させていただきたいと考えております。

なお、速やかに復旧作業に着手するため、当面、年度末に執行する除雪等から流用させていただく予定としております。

私からは、以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） 私からは、台風被害の状況についてお答えいたします。

漁港区の浮さん橋の復旧期間等についてのお尋ねですが、被災箇所のうち、浮さん橋と連絡橋をつなぐチェーンの破断につきましては、台風１０号が通過した当日に仮復旧を行い、浮さん橋の利用を可能としたことから、漁業への大きな影響は生じておりません。

また、本復旧の期間につきましては、復旧工事により浮さん橋などの利用に制限が生じることもあり、今後、漁業関係者との工程を調整の上、決定することになりますが、できるだけ早期の復旧に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 以上で、越川慶一君の一般質問を終了いたします。

○閉会

○議長（神戸典臣君） 以上をもちまして、本議会に付議された案件は全て議了いたしました。

閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

本議会に付議されました事件は、報告１件、議案２件ありますが、皆様方の御協力により滞りなく議了いたしましたことに、議長として厚く御礼を申し上げますとともに、議員各位の熱心な御審議を得ましたことに重ねて御礼を申し上げます。

以上をもちまして、平成２８年第３回定例会を閉会いたします。

（了）

午後２時４８分 閉会

上記のとおり会議の次第を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

苫小牧港管理組合

議 長 神 戸 典 臣

署名議員 田 中 芳 憲

署名議員 中 山 智 康